

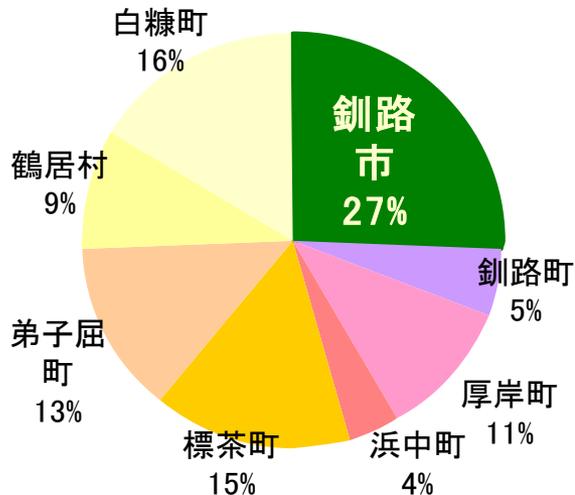
**くしろカラマツを
もっと使おう！**

釧路森林資源活用円卓会議

「森林都市くしろ」

釧路市の森林面積は平成17年10月の合併により、10万1千haになりました。

その面積は、全道3位！ 全国9位！

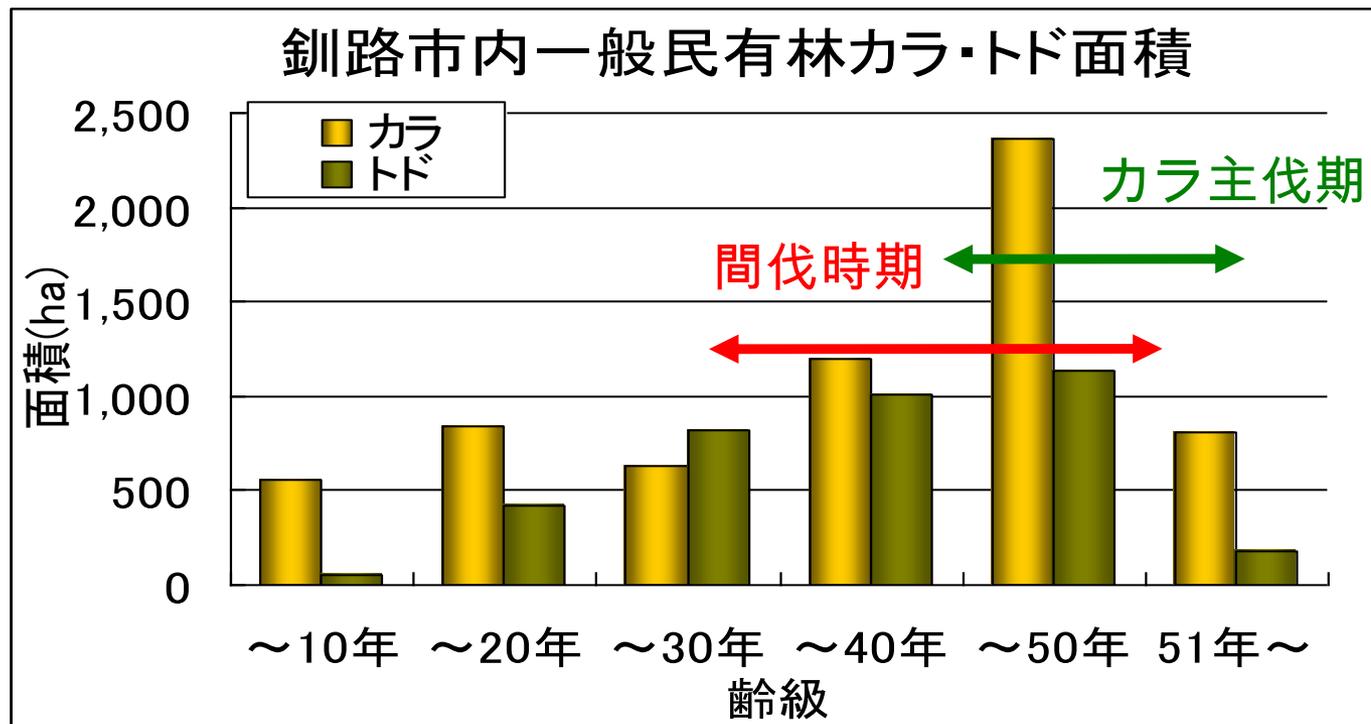


図一1 釧路管内森林面積割合

管内の約4分の1の面積

市内の一般民有林資源の状況

- 人工林はカラマツなどを中心に約1万3千ha
- その多くが利用可能な時期に集中



*「林種・樹種・林相別森林資源構成表(H21)」北海道水産林務部

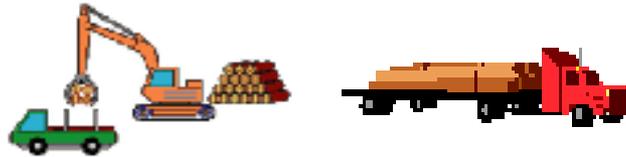
豊富な人工林資源の有効活用が望まれる

釧路管内製材の現況

- 伐採量に対して、管内の加工量は少ない
 - 製材用途は、梱包材が主で、建築材は少ない
- 地域内で加工し、高付加価値化が重要

《釧路管内カラマツ材の流れ(H20実績)》

◆管内伐採量

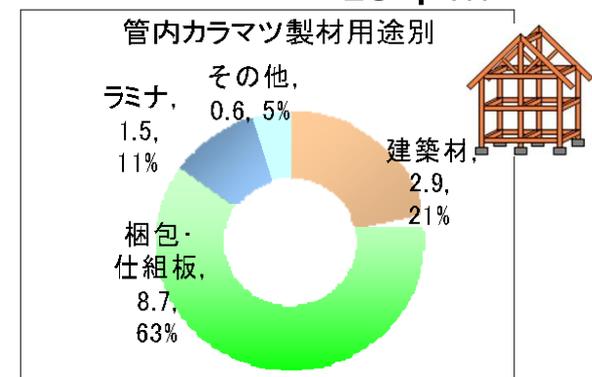


用途	伐採量
製材用	50千m ³
合板用	42千m ³
パルプチップ用	33千m ³
その他	8千m ³
	133千m ³

◆管内製材工場

原木消費量 28千m³

製材生産量 13千m³



平成22年11月

釧路森林資源活用円卓会議の誕生

林業、木材産業、建築、設計、ユーザー、研究機関など、様々な関係者が集まって、釧路市有林をはじめとした、釧路市内の森林資源の活用策を検討開始



円卓会議で挙げられた課題

項目	課題
資源	利用可能な「量」が不明
安定供給(原料確保)	地域の木材が「安定的」に供給されない
性質・品質	木材性質に難(利用の手法(技術)が普及していない)
価格	地域材の利用に「コスト」が掛かりすぎる
説明・人材育成	木材・地域材を利用する「地域の共通認識」が不足
プロモーション	木材・地域材を利用することメリットの認識不足
品質管理	満足できる「品質」の木材が供給されない
使用用途	必要条件が満たされず画一的な木材利用が行われている
商品開発	顧客ニーズにあった商品が提供されていない
ブランド化	地域材を利用するインセンティブが不十分
連携	地域内での連携が薄い
行政との連携・補助	(コストに見合うだけの)メリットがない

解決に向けた「行動」へ！

くしろ木づなプロジェクトの立ち上げ

くしろの様々な地区、様々な業種の方たちが、「木」で「つな」がって

円卓会議で話し合ったことをもとにして、地元木材の利用を広げる取組のこと

「木」が「つな」ぐ、地域の“絆”

木づなプロジェクトの事業構成



課題

- ・利用可能な資源量が不明
- ・木材の性質
- ・カラマツ製品の「品質」
→情報の調査、数値化

もっと使う、くしろの木



課題

- ・画一的な木材利用
- ・顧客ニーズにあった商品提供
→地域内での幅広い使い道の検討

もっと伝える、くしろの木と技



課題

- ・プロモーション不足
- ・木材を利用する地域の共通認識不足
→人材育成、利用するエンドユーザー(応援団)増加

釧路市では、釧路市地域材利用
推進方針を策定し、市の建築物に
地元のカラマツを積極的に使って
います

その一例をご紹介します

市民球場 屋内投球練習場



西部子育て支援 拠点センター



昭和丹頂分団庁舎



中央小学校内装



今年は、動物園のアル
パカ舎を地元カラマツを
使って建設しています

「もっと使う、くしろの木」の取組では、さまざまな商品が開発されました

◎カラマツ壁材、床材



円卓会議メンバーの応接室



市役所 秘書課

もっと使う、
くしろの木



◎カラマツ 学校机・椅子



- 硬い天板とするためFRP加工
- 椅子にノンスリップ塗装



◎カラマツダイニングテーブル



FRP加工



ウレタン塗装

もっと使う、
くしろの木



◎カラマツ椅子



もっと使う、
くしろの木



◎カラマツ カホン



平成25年2月上旬開催メイドインくしろの
親子木イベント向けとして開発



◎カラマツ カーフハッチ



- ・ 作業する方の負担を軽減するデザイン
- ・ 少ない種類の部材で構成

もっと使う、
くしろの木



◎カラマツ カヌー



板が細くなって割れないよう、一つ一つ節の少ないところを選ぶ

もっと使う、
くしろの木



◎カラマツ会議机



釧路総合振興局の会議室



釧路総合振興局林務課
打合せスペース

もっと使う。
くしろの木



**これからも、カラマツ
の利用促進に取り組んで
まいります**

ご清聴ありがとうございました